



研究者名※	村山 実和子 MURAYAMA Miwako	学位※	博士(文学) 修士(文学)
所属※	文学部 日本文学科	職名※	講師
連絡先	murayamam@fc.jwu.ac.jp		
URL			
researchmap※	https://researchmap.jp/mmurayama		
研究分野※	人文学:日本語学		
研究キーワード※	日本語史、文法、語彙・意味、コーパス言語学		
共同研究・競争的資金等の研究課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 派生・複合情報を付与した歴史コーパスによる語形成の歴史的研究(科学研究費・若手B・研究代表者、2017~2020年) ・ 語形成の変化に着目した日本語形容詞の歴史的研究(科学研究費・若手・研究代表者、2020~2023年) ・ 形容詞の語義・用法データベースの作成とそれに基づく歴史の変遷の研究(科学研究費・基盤C・研究分担者、2021~2024年) ・ 「抄物コーパス」の構築とコーパスを応用した日本語史研究(科学研究費・基盤A・研究分担者、2021~2024年) 		
社会貢献・産学官連携活動等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 『日本語歴史コーパス』「中納言」講習会(於 九州大学、2018年4月) ・ 駒澤大学秋季公開講座「日本語の千年—コーパスで解き明かすことばの生態—」第5回「中世・近世」(於 駒澤大学、2018年11月) ・ 「令和」ゆかりの地太宰府で読む万葉集講座～巻五「梅花の歌32首」を中心に～ 第2回「万葉仮名で読む梅花の歌」(於 福岡女子短期大学、2019年10月) 		
受賞歴	<ul style="list-style-type: none"> ・ 情報処理学会 人文科学とコンピュータ研究会奨励賞(2017年) ・ 人間文化研究機構国立国語研究所 第15回所長賞(若手研究者奨励賞)(2017年) ・ 人間文化研究機構国立国語研究所 第19回所長賞(若手研究者奨励賞)(2019年) ・ 福岡女子短期大学 授業実践に関する教員表彰(2021年) 		

研究領域	日本語史	(SDGs)
研究テーマ※	形容詞を中心とした語形成の史的研究	
概要※ (概ね1000字以内) (写真・グラフ等自由)	<p>【研究の背景・目的・内容】 中世～近世日本語には、現代共通語に見られない造語形式が多様に見られる(e.g. 「一ワシイ」:そそかわしい・いまいまわしい…、「一クロシイ」:あつくろしい・えずくろしい…、「一コイ」:ぬるっこい、さむっこい…、「一ガマシイ」:おさながまししい、いかつがまししい…。他方、現代共通語においては、そのような接尾辞(語の後ろについて、品詞を変えたり何らかの意味を付加する要素)による派生は、「一ツポイ」「一ラシイ」などをのぞいて生産的な方法とはいえない。そのような状況を踏まえ、形容詞の語形成(造語)の歴史において、古代～近代への転換期に、大きな変化があったのではないかという予測のもと、その実態の解明を目指している。</p> <p>【応用例、研究の展望】 形容詞の語形成については、従来、古代語・現代語の研究が中心であり、中世～近世の状況については検討が不十分であった。当該時期の記述が進むことで、形容詞の語形成史を包括的に論じることが可能になる。</p> <p>【研究方法の特色】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 人間文化研究機構国立国語研究所の共同研究員であることから、研究所が保有するデータベース・資料等の使用権限を有しており、大量のデータを利用した分析が可能である。 ・ 中世の主要な口語資料でありながら、十分な調査が進んでいない抄物資料について、科学研究費による共同研究を通して、より精密なテキストの分析が行える。 	
本研究関連特許・論文等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 村山実和子、「『ワル(悪) + 形容詞』の消長—形容詞語形成の観点から—」、『筑紫語学論叢Ⅲ—日本語の構造と変化—』pp.179-198、2021年 ・ 村山実和子、「接尾辞「ハシ(ワシイ)」の変遷」、『日本語の研究』15-2、pp.18-34、2019年 	
共同研究・外部機関との連携への期待	<ul style="list-style-type: none"> ・ 国立国語研究所プロジェクト(開かれた共同構築環境による通時コーパスの拡張(通時コーパス))との共同研究 	